※原告団となくす会の会員の方には，爆音カレンダーを同封しました。ご利用ください。

－静かな夜と空を返せ－

発行日：2016 年 10 月 13 日
発行者：大沢豊／福本道夫

No.25

横田・基地被害をなくす会 NEWS

原告団 NEWS No.16

合同発行

連絡先：〒 196-0001 東京都昭島市美堀町 3-13-1　**留守 TEL&FAX**：042-542-5625
E-mail：なくす会⇒ yokota_nakusukai@yahoo.co.jp　原告団⇒ yokota9th@yahoo.co.jp
Web サイト　http://www.geocities.jp/yokota_nakusukai/

発行：横田・基地被害をなくす会／第 9 次横田基地公害訴訟原告団
※ NEWS は「横田・基地被害をなくす会」と「第 9 次横田基地公害訴訟原告団」の合同発行です。

NEWS 内容 (CONTENTS)

10月27日第18回弁論参加要請…… 1
全国基地連・第 4 回総会＆原告団交流会報告 …… 2
特別緊急寄稿：緊迫の高江／沖縄報告…… 3
横田基地は変化を遂げつつある…… 6
「うるさい！」と思ったら【抗議先一覧】…… 7
経過報告と今後の予定…… 7
オスプレイ反対署名へ引き続きご協力を…… 8
天欄…… 8

10 月 27 日第 18 回弁論に参加を
10 時 15 分高松駅西側公園に集合

立川地裁 4 階 405 法廷で午前 11 時開始

次回 10 月 27 日（木）の法廷では，弁護団が慰謝料や 75 Wコンター外原告の被害等について主張する予定です。

弁護団を応援する意味でも，被告国に横暴な主張をさせない意味でも，傍聴にご協力ください。

裁判所に行くのが身体的にきつい方は，車での送迎も検討しますので，下記電話にお申し出ください。

事前集会は 10 時 15 分～緑町北公園です。

◇連絡先電話：090-4951-0800（福本携帯）

裁判当日は，いつも裁判開始前に緑町北公園で簡単な集会を行っています。集会では，弁護団の先生や原告団，横田・基地被害をなくす会の役員が，当日の裁判内容や基地の状況などを説明し，隊列を組んで裁判所に向かいます。また，当日の裁判内容（主に原告側が裁判所で主張する内容）をニュースにしてお渡しします。ぜひご参加ください。

なお，次々回は来年 1 月 19 日（木）の予定です。

―全国基地爆音訴訟原告団連絡会議―

原告団交流集会・第４回総会を 9/17-18 昭島市内で開催

横田・基地被害をなくす会　事務局長　塚本秀男

全国６つの基地を対象に裁判を進めている７つの原告団（正式名称は割愛）である嘉手納と普天間訴訟団（沖縄県），岩国原告団（山口県），小松訴訟団（石川県），厚木訴訟団（神奈川県・町田市），及び，第二次新横田と第九次横田原告団（東京都，入間・飯能市）の原告，弁護団，市民が参加して開かれました。2011 年秋に小松市内での開催に続く第四回目の集会と総会でした。台風接近のため上京できない方もおられましたが，昭島市役所市民ホールを主会場に全国から 112 名の参加者を得，成功させることができました。（詳細は，議案書参照）

沖縄辺野古・高江をめぐる緊迫した基地情勢の中，マスコミの注目も集まり翌朝には新聞５社（朝日，東京，神奈川，琉球新報，沖縄タイムズ　記事を入手できた社のみ）が報道しました。

昭島市長（副市長代読）の挨拶を受けて始まった２日目（9/18）の午前中では，各原告団からの現状報告に続き，特別報告として①リムピース共同代表の金子豊貴男氏から『全国の基地情勢について』，②厚木訴訟を担当されている石黒康仁弁護士から『基地訴訟が果たしてきた役割と意義について』と題して報告をいただきました。その後，参加者が三つの分科会に分かれて，各々の裁判や運動について活発な交流が進みました。

午後からは第４回総会を開催。「活動報告・方針」（提案：全国連絡会議事務局長 福本道夫氏），「会計報告・予算」（提案：同連絡会議会計 斉藤昌民氏），「会計監査報告」（同監査 大野芳一氏），及び，役員提案について意見が交わされ，全体の拍手で確認されました。新役員を代表されて，金子豊貴男氏（厚木原告団長）から挨拶があり，総会決議と特別決議２本が提案され承認され，閉会しました（役員一覧と決議は議案書をご覧ください）。

全国各地から参加された方々を迎えた１日目（9/17）の夕刻には，歓迎を兼ねた交流懇親会が昭島駅近くの『フローラカルチャークラブ』にて開かれました。来賓として，『三多摩平和運動センター議長』の田中泰伸氏，『横田基地撤去をめざす西多摩の会代表』の高橋美枝子氏からのご発言をいただきました。久しぶりに対面しあう原告や弁護士，市民の温かい交流の場となりました。交流を盛り上げたのは，『なくす会』の事務局員である工藤てい子さんによる『安来節・どじょうすくい』踊り（工藤さんは踊りの先生をされている方です！）でした。各地の原告団から３人の方が選ばれて踊りの練習に挑戦され，喝采を浴びる場面も。

最後になりましたが，『第９次横田原告団』『横田・基地被害をなくす会』から３５名の方が参加され，送迎車の運転，会場設営などに協力して頂きました。また，第９次横田訴訟の弁護団からは佐竹，馬場，荒木，山口の各先生に参加して頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

写真上：9/17 交流懇親会での一コマ
写真下：9/18 全国各原告団からの報告

緊迫の高江＿沖縄報告

普天間爆音訴訟団
事務局長　　高橋年男

※第２次普天間基地爆音訴訟の地裁判決を 11 月 17 日に控え忙しい中ですが，沖縄の　状況を皆さんに知らせたく，寄稿してもらいました。

はじめに―沖縄はいまどうなっているか

沖縄は今，軍事基地に反対する闘いのかつてない高まりの渦中にある。1972 年の沖縄返還以降，最大の規模とエネルギーを持った反基地闘争が展開されている。

闘争現場の焦点・辺野古では，1997 年の名護市民投票による新基地建設 NO! の表明以来 20 年近く，闘争現場のもう一つの焦点・高江では，2006 年の区民総会でのヘリパッド反対決議以来 10 年にわたって，日米両政府による沖縄の基地強化・固定化に反対して，工事現場での座り込みをはじめ粘り強い闘いを続けてきた。

さらに保革の対立を乗り越えた≪オール沖縄≫の県民の総意により，2014 年 12 月に誕生した翁長沖縄県政は，中央政府に対抗する地方自治体としての役割を十二分に果たしている。

沖縄は日米両政府の軍事戦略に対する抵抗の砦だ。ところが，オール沖縄の伊波洋一氏（元・宜野湾市長）が，安倍政権の現職沖縄担当大臣を 10 万票以上の大差で破った 7 月 10 日の参院選の翌日から，日米両政府の沖縄に対する全面攻撃が始まった。①高江ヘリ（オスプレイ）パッド建設の強行，②辺野古新基地に反対する沖縄県を被告とした国の訴訟，③辺野古の陸上工事の着工の動き。
沖縄は，日米両政府との全面対決の局面に突入した。

１．高江は，世界で唯一の対ゲリラ訓練基地のある北部訓練場

北部訓練場は，沖縄島北部のやんばるの森にある面積 78.24㎢の広大な基地である。1957 年に使用が始まった。亜熱帯の起伏に富んだ森は米軍の対ゲリラ戦の訓練にうってつけとされ，1960 年代のベトナム戦争から 1990 年代の湾岸戦争を経て，最近ではアフガン・イラク戦争まで米軍の訓練基地となってきた。

訓練場は米海兵隊の管理の下で，陸海空海兵の各部隊が歩兵演習，ヘリコプター演習，脱出生還訓練，救命生存訓練，砲兵教練などを行う世界で唯一の対ゲリラ訓練基地である。ベトナム戦争の際には枯葉剤の散布実験・訓練が行われた。

現在，全国の 0.6％の面積の沖縄に米軍専用施設の 74％が集中している。この明白な沖縄差別のイメージを和らげようと，1996 年，日米両政府は SACO 合意で，「沖縄の負担軽減」を名目に，嘉手納より南の米軍施設の返還と中北部への移設，および北部訓練場の一部返還を内容とする沖縄駐留米軍基地の再編を打ち出した。その返還面積の大半を占めるのが北部訓練場の返還予定部分である。

２．「負担軽減」は名目，実態はオスプレイ訓練基地強化

SACO 最終合意で北部訓練場の北半分を返還するとしたが，それには以下の条件があった。①北半分にあるヘリパッド 7 か所の高江周辺への移設（のちに 6 か所に変更），②高江の北側にある宇嘉川流域・河口海域の米軍への新規提供である。日本政府はアセスメントの際やその後も「オスプレイの配備はない」と述べ，ずっとオスプレイの配備を隠していた。ところが，ヘリパッドで訓練するのはオスプレイだ。

米海兵隊は，2013 年に太平洋地域の基地運用計画についてまとめた「戦略展望 2025」の中で，「最大で約 51％の使用不可能な北部訓練場を日本政府に返還する間に，限られた土地を最大限に活用する訓練場が新たに開発される」とハッキリ述べている。北部訓練場の返還予定地は米軍にとり「使用不可能」で不必要な土地だ。その代り米軍は，オスプレイ訓練のための宇嘉川流域・河口海域と近接ルート上の高江周辺での 6 か所のヘリパッドを手に入れる。基地面積は減るが，基地機能は増す。「限られた土地を最大限に活用」して，北部訓練場は陸海空の結合した総合訓練場に強化される。

オスプレイ 3 機同時の夜間訓練の際の騒音は最大 99・3 デシベルだった。高江の住民は「新たに 4 か所が完成したら，私たちは住む事ができません。今でも限界です」と訴えている。オスプレイの夜間訓練の爆音を原因とした児童生徒のストレスと睡眠不足による不登校が起きている。高江だけではない。ヘリパッドの北側，国頭村安波地区も同様である。9 月 21 日，高江住民ら 33 名が，国を相手に工事の差し止めを求める訴訟を那覇地裁に起こした。

→ P.4 に続く→

→ P.3 から続く→

3．日本政府の暴力的基地建設の裏に米軍の圧力

「計画から 20 年，着工から 10 年も経つというのにまだ完成しないとは！」沖縄駐留米軍トップのローレンス･ニコルソン 4 軍調整官は,6 月 18 日「北部訓練場の一部を来年初めに返還する用意がある」「今年下半期に動きがあると期待している」と述べて，高江のオスプレイ基地を早く建設するよう，日本政府に対するあからさまな圧力を強めていた。

安倍政権は，参院選の翌 7 月 11 日から，東京，神奈川，千葉，埼玉，大阪，愛知，福岡など全国各地から 500 人の警察機動隊と 70 人の防衛省職員，そして地元の県警・機動隊を総動員して工事着工の準備に入った。そして，7 月 22 日早朝から県道 70 号線を封鎖し，160 台以上の車両バリケードと 200 人以上の抗議のスクラムを排除し，N1 ゲート前のテントと車両を強制撤去した。現在防衛局は，数百人の警察機動隊の警備のもと，県道 70 号線の N1 ゲートからヘリパッド建設ポイントにいたる道路整備作業を進めている。高江はあたかも法律が停止された‘戒厳令’下のようだ。

9 月 13 日にはとうとう，ヘリパッドを整地するための重機や資材の搬入用に，胴体の日の丸が大きく目立つＣＨ４７大型自衛隊ヘリを投入した。

天皇の命と引き換えに地獄の沖縄戦に突き落とされ，そこから生き残ったオジー・オバーの頭上を，沖縄戦を想起させる日の丸ヘリコプター。日本軍が再び沖縄を戦場にしようとするこの基地建設。

一方，地上では，工事作業現場が米軍基地としての提供地であるために，警察には市民を逮捕・拘束する権限がないにもかかわらず，工事標識用の黄色と黒のトラロープで座込む市民を縛り上げ拘束し，谷底から吊上げる危険で違法な暴力・権力の濫用をくり返している。ケガ人が続出し，救急車で病院に搬送される事態が繰り返されている。

しかし連日，地元の住民と抗議の市民は，Ｎ１での資材搬入阻止の座込みと，Ｎ１裏の工事現場で，重機を止めるために体を張って闘いを続けている。

4．市民の連帯の輪を広げよう

追い詰められているのは日本政府の方だ。警察の違法な弾圧の映像が，インターネットで世界中に拡散され，国連人権理事会でも「沖縄では集会・表現の自由も保障されないのか？」と日本政府は追及されている。来年３月までに完成しなければ，米軍からも責任を追及される。

例年３月から６月の４ヵ月は，世界で唯一沖縄やんばるの森にしかいない絶滅危惧種のノグチゲラやヤンバルクイナなど，野生生物の営巣期に当たるため工事をしたことはない。米軍は，絶滅危惧種保護の環境基準を遵守している。ハワイではコウモリの生息地が近いという理由でオスプレイの訓練計画を撤回した。テニアンでもウミガメの保護を理由に上陸訓練が中止された。沖縄だけやりたい放題とは，いかないはずだ。

来年の３月１日まで，今後５ヵ月が山だ。現地では毎日 24 時間態勢の監視行動・抗議行動が行われている。

アメリカのアジア支配の軍事的かなめ・沖縄で，人権と環境，自治と民主主義を求める闘いが，米軍の軍事政策を揺るがしている。米軍がいつまでもアジア支配を続けることはありえない。米軍のアジア関与の衰退がいろいろな形で，不可避的に政治日程に上ってくるだろう。それがアジア各国の軍事対立と軍拡競争の道ではなく，人々の人権と環境，自治と民主主義に基づくアジア各国・各地域の連帯協同の新しい道となるよう，我々市民の闘いの連帯を広げる努力が，今ほど問われる時はない。

～オスプレイ普天間強行配備４年目の 2016 年 10 月１日に記す。

▶圧倒的な人数で反対住民・支援者を排除する本土の警察（機動隊）

■ニュース・情報提供 098-865-5158
■広告のお申し込み 0120-41-5059
■購読・配達の問い合わせ 0120-39-5069
■本社事業案内 098-865-5256
■読者相談室 098-865-5656

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

第38670号

2016年（平成28年）
9月14日 水曜日
［旧8月14日・先負］

発行所 琉球新報社 ©琉球新報社2016年
〒900-8525 那覇市天久905 電話:098-865-5111

北部着陸帯

陸自ヘリ重機運搬

2機投入、海自艦も出動

【ヘリパッド取材班】東村と国頭村に広がる米軍北部訓練場での新たなヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）建設で、沖縄防衛局は13日午前9時すぎから午後1時ごろまで、陸上自衛隊のCH47輸送ヘリ2機を使用し、訓練場のメインゲートから新たなヘリパッドの建設先G、Hの両地区に重機などを空輸した。米軍施設建設のために自衛隊機が出動するのは異例。米軍北部訓練場のヘリパッド建設に絡む工事で自衛隊機が重機を輸送するのは初めてとなる。（2、3、28、29面に関連）

メインゲートとG、Hの両地区は県道70号を挟んで反対側に位置するため、自衛隊機は重機をつった状態で県道を越えた。県道では車両の通行もあり、安全上の観点から県民の批判が高まるのは必至だ。

重機をつり上げ、G、Hの両地区に向かう自衛隊のCH47輸送ヘリ＝13日午前10時ごろ、東村高江の米軍北部訓練場メインゲート内のヘリパッド（花城太撮影）

陸上自衛隊のヘリは沖縄近海に停泊していた海上自衛隊の輸送艦「おおすみ」から飛び立ち、米軍北部訓練場付近に移動。4トントラックやキャタピラのついた作業車など少なくとも5台の重機を運び込んだ。自衛隊機による重機の搬入は13日で終了したが、民間機による重機の搬送は14日以降も続くとみられる。

稲田朋美防衛相は13日の会見で、自衛隊機を使用する根拠について防衛省設置法4条19号を挙げ「沖縄の負担軽減にとって有益で返還に伴うための措置だ。民間機で運べないもので、陸路で運べる状況にはない。自衛隊機で必要最小限度のものを運ぶ」と述べた。

この日はダンプカーによる砂利搬入は確認されなかった。

▶反対住民・支援者を排除後，工事車両が通っていく

横田基地は変化を遂げつつある

第 9 次横田基地公害訴訟原告団　団長　福本道夫

既に NEWS でお知らせしている内容もあるが，このところ横田基地が，運用の仕方も含めて，明らかに何かが変わってきている。具体的には以下の通りだが…

①オスプレイの飛来の常態化（普天間に配備されている海兵隊の MV-22 だけでなく，米本土から米韓合同演習に揚陸艦に艦載された V-22 も）と飛来情報の遅れ，または通知無視が目立つ。

② CV-22 オスプレイの配備（2017 年末に 3 機，その後 2021 年までに 7 機，計 10 機）と，特殊部隊（軍属含め）約 430 名（家族を含めると約 1,000 名の住民が増える）の配備が決定している。

③飛行回数の増加（2012 年に 8,000 回程度にまで減少した年間飛行回数だったが，2013 年以降，約 12,000 回になり，その後も減少はしていない。）が目立つ。

④ 2012 年より基地内で人員降下訓練が頻繁に行われるようになっている。毎年，他基地の兵員約 500 名が横田基地内をめがけて降下訓練を行っている。これほど大規模な降下訓練は，現在，沖縄県伊江島で行われているのみだ。

⑤米韓合同演習に横田基地も直接かかわっている。訓練に合わせて，周辺住民の生活にはお構いなしで深夜～未明の離発着が行われている。

⑥常駐の主力機 C-130H の交替：防衛省からの周辺自治体への連絡では，本年 12 月から 2018 年 6 月までの間に 14 機全てを，新型機の C-130J に交替する旨の発表があった。これによると，「J」は「H」に比べて乗員は 3 名（← 5 名），乗員は＋ 36 名（128 名← 92 名），全長は約 5m 長くなり（34.69 m← 29.3 m），全幅・全高は同じ，プロペラは 6 枚（← 4 枚），最大速度は約 660 ｋｍ / ｈ（← 589 ｋｍ），行動半径は 1.5 倍になり，低騒音だと言われている。実際には運用されてみなければわからないが，少なくとも，ここ数年間目立っていた部品落下事故は減るかもしれない。

⑦州軍機や沿岸警備隊機，空中給油機，他国軍機などの飛来が目立つようになった。

⑧戦闘機の大量飛来：米韓合同演習の関係もあるかもしれないが，10 機を超える部隊の飛来が目立つようになっている。

※これらが何を表しているのか，まだわからない。

C-130J（左）と C130H（右）

▲沿岸警備隊の HC-130

▲大型ヘリ CH53E。アフガンでの事故率は，第 1 位が MV-22 オスプレイ，…第 3 位が CH-53E となっている。全長約 30 m，主回転翼直径約 24 m，315km/h の高速性能を持つ。

※ HC-130 と CH53E の写真は yokotajoho のブログより転載。

◇オスプレイの飛来と配備に反対するリーフレット No2 ができました。同封します。

「うるさい！」と思ったら…

各自治体には，苦情としてお伝えください。件数が記録されます。

抗議先一覧

横田基地：042-552-2511
航空自衛隊横田基地：042-553-6611
防衛省北関東防衛局：048-600-1800
防衛省横田防衛事務所：042-551-0319
外務省：03-3580-3311
東京都庁：03-5321-1111
瑞穂町役場：042-557-0501
羽村市役所：042-555-1111
福生市役所：042-551-1511
昭島市役所：042-544-5111
立川市役所：042-523-2111
武蔵村山市役所：042-565-1111
日野市役所：042-585-1111
あきる野市役所：042-558-1111
青梅市役所：0428-22-1111
入間市役所：04-2964-1111
飯能市役所：042-973-2111
日高市役所：042-989-2111

経過報告と今後の予定

（2016 年 7 月 23 日～）

＊ 7/23 横田基地学習会と案内
＊ 7/25 基地周辺団体にカンパと署名協力要請行動
＊ 7/26 全国基地連打合せ（厚木）
＊ 7/30，8/1，8/3 三沢の F16 が計 14 機飛来
＊ 7/31 辺野古新基地建設断念を求める全国交流集会
＊ 8/1 全国基地連総会準備会
＊ 8/2 オスプレイ横田配備反対連絡会周辺自治体要請
＊ 8/4 なくす会＋原告団役員会議
＊ 8/5 三沢の 14 機の F16，110dB(A) 超の音で離陸。
＊ 8/5 弁護団＋原告団会議
＊ 8/7 オスプレイ反対署名実施
＊ 8/9 オスプレイ横田配備反対連絡会八王子市要請
＊ 8/20 違法爆音止めろ！厚木基地いらない 8.20 神奈川集会とデモ
＊ 8/23 号外発行
＊ 8/25 嘉手納地裁結審支援～嘉手納・普天間基地氏視察～事務局長会議～交流会（原告 + 弁護団）
＊ 8/26 高江支援行動
＊ 8/31 オスプレイ・東日本連絡会作業委員会
＊ 9/1 第 17 回弁論と進行協議
＊ 9/1 なくす会＋原告団役員会議
＊ 9/6 全国基地連総会準備打合せ
＊ 9/8 板橋区九条の会・基地視察打合せ
＊ 9/17 全国基地連，歓迎交流会
＊ 9/18 全国基地連，原告団交流会と第 4 回総会
＊ 9/17-18 横田基地・日米友好祭
＊ 9/27 弁護団＋原告団会議
＊ 9/28 錦法律を知る会学習会（講師派遣）
＊ 10/2 オスプレイ反対署名
＊ 10/6 なくす会＋原告団役員会議
＊ 10/8 横田基地もいらない…集会

○○○○○○○【今後の予定】○○○○○○○

＊ 10/16 市民の広場・憲法の会による横田基地視察
＊ 10/17 弁護団会議
＊ 10/20 オスプレイ横田配備反対連絡会
＊ 10/23 平和運動Ｃ主催の学習会（講師派遣）
＊ 10/23 オスプレイ反対集会（平和運動センター主催）
＊ 10/26 オスプレイ東日本連絡会作業部会
＊ 10/27 第 18 回弁論と進行協議
＊ 10/31 厚木基地訴訟最高裁弁論：支援と報告集会
＊ 11/6 オスプレイ反対署名実施
＊ 11/10 なくす会＋原告団役員会議
＊ 11/16 全国基地連事務局長会議
＊ 11/17 普天間基地爆音訴訟地裁判決
＊ 11/18 高江 or 辺野古支援行動
＊ 11/23 オスプレイ反対集会（全労連系）
＊ 11/25 長野で学習会（講師派遣）
＊ 11/26 佐久で学習会（講師派遣）
＊ 12/8 なくす会＋原告団役員会議
＊ 1/19 第 19 回弁論＋証拠整理

オスプレイ反対署名に引き続きご協力をお願いします

オスプレイの横田基地への飛来（MV-22）・配備（CV-22）に反対する署名にご協力いただきありがとうございます。本年２月 12 日に政府に提出した 18,000 筆の署名をさらに広げたいと思います。

当面は同じ文面（今後は宛先の防衛大臣名などは変更。従来版はそのまま使用）で署名集めを進めていきます。反対リーフレット No2 や署名用紙が不足の方はご連絡ください。

次の集約日は，本年末日としていますが，地元住民の数を考えると，まだまだ不足です。自分の行動範囲で可能な限り賛同者を集めてください。

訓練空域を含めた横田基地周辺で，「これ以上の危険や被害が増加することに反対だ」との声を更に広げなければなりません。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

11月６日（日）午後２時～３時に，JR 昭島駅北口にて，オスプレイ配備・飛来反対の署名活動を行います。

参加，大歓迎です。

天欄

▶台風 16 号の直撃が危ぶまれる中，９月 17 ～ 18 日に昭島で全国基地訴訟連絡会の３年ぶりの総会が開かれた。17 日夜の交流会では，普天間からの代表が折からの高裁那覇支部判決を報じる地元紙を掲げて見せてくれた。辺野古の埋め立てを禁じた翁長沖縄県知事の決定を違法とする判決で，裁判長は「場所は辺野古しかない」とまるで行政官のような踏み込んだ判決を下している。本土紙と異なる紙面一杯の記事に，沖縄と本土を隔てる関心の差を痛感した。▶ 沖縄から『けーし風（返し風）』という小さな季刊誌が数カ月ごとに送られてくる。発行主体は「新沖縄フォーラム」。数カ月から一年，時には長い歴史的射程で事柄を掘り下げて考える示唆に富んでいる。７月に送られてきた号は４月に起こった元米軍属による女性強姦殺害事件を扱っていた。▶犯人の名も，強姦，殺人に至る経過も，沖縄の新聞は詳細に報道している様子だ。掲載されていた幾つかの抗議声明の一つ，「元軍人の会琉球・沖縄の声明」を紹介しよう。声明は，「ある意味では我々の一人とも言える人物が，この種の犯罪を犯したことを恥ずかしく思います」という言葉ではじまる。この団体には，かつて沖縄に駐留した元米軍人，現在も沖縄に住む会員が参加しているという。趣旨を追ってみよう。▶軍隊の駐留，基地の存在が可能なのは「良き隣人である場合」だけである。「綱紀粛正」が駐留の最低限の要件である。▶だが軍隊は良き隣人となると同時に，効果的な殺人者となる教育を受ける必要がある。今回の容疑者はかつて米海兵隊の３等軍曹だった。３等軍曹こそが……の矛盾する教育を担当している。▶３等軍曹は文書化された綱紀粛正の教育をすると同時に，文書化されていない教育……人命を破壊できる人間を育てるシニシズムの教育を担当している。容疑者が有罪であるなら，この「海兵隊教育と綱紀粛正」の文化こそが今回の犯罪を生み出したのだ。▶沖縄では，棒，ナイフ，スーツケース，そして強姦魔を乗せた車が，今現在徘徊していないと誰にも言えない。「見つけた，あの女だ！」と。これがテロと呼ばれるものなのだ。▶日米両国が反テロ運動に取り組むのであれば，ここ沖縄から始めなければならない。横田訴訟初代原告団長の福本龍蔵さんに戦後の堀向の話を伺ったことがある。占領軍による性犯罪が多かった。日本の警察は力不足だった。若い福本さんたちは，自治会を作り，棒を持って夜警をして回ったという。▶私が育った基地の町立川でも同じ状況だったことを思い出す。沖縄の今に思いを馳せながら，そして事態を正面から受け止めて発言する米軍元軍属の人々にエールを送りたい。（K）▶私事だが，自転車転倒による自損事故で右肘と足を骨折し，20 日間の人生初の入院を余儀なくされた。また，退院後１週間は松葉杖のお世話になった。何の手助けもなしに歩けることのありがたさを感じたが，多くの方に迷惑をかけ，世話になった。▶病院の夜は長い。病人のうめき声や看護士を呼ぶ声，いびき等々，一旦起きてしまうと眠れず，睡眠不足がちになった。また，眠りは浅かった。夜間飛行による睡眠妨害も同じことだ。▶８月に沖縄県・高江を支援に訪れた。地元の声を無視して，やんばるの森のど真ん中にヘリパッドが作られようとしていた。そして，声も表情も押し殺した本土の機動隊員たちが地元住民・支援者を排除していた。マスコミの目がなければ何でもやるという意思が見え隠れした。恐ろしい国になった。（M）